

監修の言葉

昨今、「心電図検定」をきっかけに、心電図に関する書籍が数多く出版され、心電図学習への関心はますます高まっています。

そのようななかで、本書の特徴は、単なる心電図の読み方にとどまらず、「心電図所見をどのように臨床現場で活かし、どう考え、どう行動するか」を学べる点にあります。

著者であるうし先生こと上原拓樹先生は、循環器専門医・不整脈専門医として第一線で診療を行いながら、XやYouTubeを通じて、日常診療で得られた知見や経験を非常にわかりやすく発信されています。

心電図を読んだあとに生まれる、「次に何を考えるべきか」「どこまで精査するべきか」「どのように行動するべきか」といった、あと一步踏み込んだ視点は、これまでの教科書だけではなかなか学べません。本書には、そうしたうし先生ならではの臨床経験と教育的エッセンスが凝縮されています。

本書の魅力は、単に波形を読む技術を学ぶだけではなく、心電図を起点として、患者背景や病態をどのように考え、次に何を評価し、どのような診療行動につなげるかという、「循環器診療の思考プロセス」を学べる点にあります。これは従来の心電図本にはあまりなかった、本書ならではの価値ではないでしょうか。

心電図をこれから学びたい方はもちろん、日常診療で「この所見をどう活かすべきか」をさらに深く考えたい医療者にとっても、本書は明日からの診療に役立つ実践的な一冊になると思います。ぜひ多くの方に手に取っていただければ幸いです。

2026年7月

日本大学医学部内科学系 循環器内科学分野／
日本大学医学部附属板橋病院 助教・CCU室長
新井 陸